

MMCの事業活動紹介 / 1
MEMS - ONE Pj情報 / 5
コラム随想 / 6
海外動向 / 7
賛助会員紹介 / 8



MMCの事業活動

平成17年度事業報告概要

概況

当センターは、マイクロマシン（MEMSなどの微小マシン/システム）技術に関する技術基盤の確立及び産業化の推進を図り、もって我が国の産業経済の発展及び国際社会への貢献に寄与することを目的として、以下のような調査・研究事業、情報の収集・提供事業、内外関係機関等との交流事業を実施した。

1. 調査及び研究事業

製造業のキーテクノロジーとなりつつあるマイクロマシン・MEMS技術について、技術及び産業動向を的確に把握し、ナノテクノロジーとの融合領域における新たな技術課題について調査研究を実施した。また、新たな技術開発が必要とされる分野において、国・NEDOプロジェクトを提案した。

（国/NEDOプロジェクト関係事業）

（1）MEMS用設計・解析支援システム開発プロジェクト（NEDO委託事業）

平成17年度は、前年度にシステム開発に係わる仕様策定が概ね完了したので、この研究成果を基にソフトウェアの製作と検証、並びに知識・材料データの取得を主体とする研究開発を実施した。また、熱および光ナノインプリント加工解析機能が開発課題に組み込まれ、10月より本格的な研究開発を実施した。各委員会の運営により、開発の進展に合わせて開発状況の把握とフォロー、開発機能のデモ検証による見直しを実施して、概ね当初計画どおりの進捗が確認されている。

（2）MEMS - ONEの普及活動に関する調査（NEDO委託事業）

平成17年度も引き続き、みずほ情報総研、日本ユニシス・エクセリョーションズと連携して、MemsONE普及のためのビジネスモデル調査研究及び専門用語の収集・統一のための調査研究を実施し、効率的な普及のための課題の検討を行った。なお、普及活動を促進するため、MEMS - ONEプロジェクトの中間成果発表会・デモをマイクロマシン展において実施し、ユーザーの動向調査を行った。

（3）次世代プロジェクト検討会

平成16年度提案に基づき、平成18年度からナショナルプロジェクト化を目指して、研究体制、開発拠点についての政策的検討や、取り組む技術項目とその成果の精緻化、集積化の共通要素の精緻化を検討した。

（4）マイクロ化学チップDBシステム（マイクロ化学研究組合請負契約）

組合を中心とする、マイクロ分析・生産システムプロジェクトの研究活動の一環として、マイクロチップデバイス、システムの研究開発に有用となる文献情報等のデータベースを作成する。このための情報収集、データ提供等の活動を行った。

（調査・研究関係事業）

（5）国内外技術動向調査

技術進歩が著しい内外のマイクロマシン技術及び研究動向の最新状況を把握分析し、マイクロマシン技術の進展に資する基本的技術情報を整備した。

（6）MEMS産業化共同調査研究事業

近年急速に応用分野が拓けてきたMEMSのより一層の産業化を促進するため、ファンドリーサービスの高度化、MEMS装置・材料分野との連携などの課題に総合的に取り組むとともに、海外ファンドリー視察調査、プロセスの標準化、材料データベースの構築、ファンドリー間連携などの具体的課題について、前年度に引続きファンドリーサービスを実施している企業と共同で調査研究を行い最終報告書をまとめた。

（7）MEMSにおける規格化戦略に関する調査研究事業（日機連委託事業）

MEMS産業力の維持強化とそれを基盤とした国際展開にとって必要となる戦略的な国際標準化・規格化の取り組みとして、MEMS産業からのニーズに基づく技術課題の調査研究を行い、世界における日本の現状把握と、将来の標準化・規格づくりに必要な技術要件を明確とし、今後の標準化ロードマップ策定に向けた提言としてまとめた。

2. 情報収集・提供事業

国内外の大学、産業界、公的機関等におけるマイ

クロマシンに関する情報並びに資料の収集を行い、センターで実施した調査資料等とともに整備し、センター資料室において閲覧・検索に供するとともにセンターのホームページを通じて内外に広く情報の提供を行った。

(1) ホームページを活用した情報発信・交流の強化

センターのホームページを活用して、積極的に情報発信・交流活動を行った。また、賛助会員向けのコンテンツの充実を図った。

(2) マイクロマシン情報誌の発行

技術文献・資料の抄録をまとめた「マイクロマシンインデックス」を定期的に発行し、賛助会員、関連機関等に提供した。

(3) ニュースレターの発行

マイクロマシンにかかわる研究動向、行政動向などの情報について、毎月定期的に「MMCニュース」として賛助会員等に提供した。

(4) 資料室の整備充実

技術文献・資料を収集し、資料室の整備充実を図るとともに、その他の情報と併せてデータベース化を進めた。

3. 内外関係機関等との交流及び協力事業

内外関係機関との交流を図るため、マイクロマシンサミットへの参加及び国際シンポジウムの開催並びに研究者及び有識者の招聘または派遣、マイクロマシンのファンドライ - ネットワ - クの構築等内外関係機関等との提携及び協力事業を行った。

(1) 第11回国際マイクロマシンサミットへの参加

アメリカ・ダラスで開催される第11回国際マイクロマシンサミットに参加してマイクロマシン技術とその応用分野に関する世界の動向等幅広い課題について討議を行った。

(2) マイクロマシン・ナノ技術に関する国際シンポジウムの開催（一部 日本小型自動車振興会補助事業）

マイクロマシン / MEMS技術とナノテクノロジーとの融合領域の技術課題及びその展望に焦点を当てた第11回国際マイクロマシン・ナノテクシンポジウムを開催した。

(3) 海外へのミッション派遣及び研究者との交流

海外にミッションを派遣し、大学その他マイクロマシン関連研究機関との情報交換を行い交流を促進した。さらに、海外で開催される国際シンポジウム、学会への参加を行った。また、欧米等からの有識者の招聘、我が国有識者・研究者の海外派遣を行って交流促進を図った。

(4) MEMSファンドライ - ネットワークシステムの構築

MEMSの産業化に不可欠なファンドライ - の整備のため、ファンドライ - サービスを提供する企業及び関連企業からなるファンドライ - サービス産業委員会において、ネットワークによるサービス提供の向上を目指したシステムの構築を進めた。

(5) マイクロ・ナノ先端技術交流の場の設置

多方面への応用が期待されている、基盤技術であるマイクロ・ナノ先端技術の展開を促進するため、情報交換、共同研究調査の発掘のための場としての「マイクロ・ナノ先端技術交流会」を前年度に引き続き開催した。

4. 標準化推進事業

マイクロマシン / MEMS技術分野において、国際的なイニシアチブを発揮しつつ標準化事業を進めた。

(1) マイクロ・ナノ材料の疲労試験に関する標準化活動（NEDO委託事業）

幅10 μ m、長さ100 μ m程度以下の各種薄膜材料の機械的な特性測評価を可能とする標準的な疲労試験方法について前年度に引続き調査研究して国際標準化を図った。このため、現在標準化されているmmオーダーの試験片を用いた疲労試験の試験方法の適用限界を明確にするため試験片の寸法を従来の約1/1000とする事の特徴とする疲労試験を実施した。平成17年度は3年間続いた本事業の最終年度であり、成果を規格原案「薄膜材料の疲労試験法」にまとめた。

(2) 薄膜引張試験法の標準化活動

平成11年度から13年度にかけてNEDO委託事業により実施した「マイクロマシン用材料の特性計測評価方法の標準化」の成果を受け、平成15年度に国際標準化規格案をIECに提案し、平成16年度にCD（Committee Draft）が承認され、平成17年度CDV（Committee Draft for Vote）を提案し、引続き国際標準化に向けた活動を行った。

(3) マイクロマシン専門用語標準化活動

平成14年度にIECに提案したマイクロマシン専門用語の国際標準化規格案は、NP（New Project）段階を経て平成16年度にCDV（Committee Draft for Vote）が承認され、平成17年度には最終段階のFDIS（Final Draft for International Standard）作成を行い、引続き国際標準化に向けた活動を行った。

(4) 標準化に関する調査研究

上記の国際標準規格提案に続き、新たに戦略的国際標準化提案を行うため、国際標準化ロードマップ作りを行うと共に、MEMS - ONEプロジェクトや信頼性評価委員会などとの連携により標準化提案課題の絞込みを行った。

5. 普及啓発事業

広報機関誌の発行、配布、展示会等を開催し、広くマイクロマシンに関する普及、啓発を図った。

(1) 広報誌を定期的に発行し関係者に配布するとともに、センターホームページからの発信も行った。

(2) マイクロマシン / MEMS産業に係る先端的な製品、製造材料等を展示し、同時に最新の研究成果を発表する場として、第16回マイクロマシン展等を開催した。

(3) マイクロマシン連合の事務局として、マイクロマシン関連団体の連携・強化に努めた。